

中津川市リニアを活用したまちづくりにかかる提言書

目 次

1	はじめに	3
2	提言	4
	【参考】	
	会議の開催日程、会議の記録（要約）	6
	設置の主旨	13
	委員の構成団体	13

1 はじめに

中津川市リニアを活用したまちづくり推進市民会議は、2027年リニア中央新幹線開業を見据え、重点的に取り組むべき事業として市が描いた「中津川市リニアを活用したまちづくり構想（案）（以下、「本構想（案）」という。）」について、産業振興、農山村振興、観光振興、交通、教育、子育て、福祉、文化・芸術、スポーツ振興、環境・防災、自治会等、域学連携、市議会、学識経験者など各分野の代表18人が参加して、その内容に対して意見を出し合ってきました。

平成30年12月27日の発足以来計4回の会議を開催し、第1回の会議では、本構想（案）に掲げた「リニア駅周辺のまちづくり」、「中心市街地の活性化」、「市域全体をつなぐ観光振興」の取り組みについて市から説明を受け、それを受けるかたちで各委員は所属する団体で意見をとりまとめることとし、第2回から第4回の会議で、3つの取り組みについて意見を出し合いました。

8年後に迫るリニア中央新幹線開業を見据えた今、リニアを活用したまちづくりを本格化させる時期にあり、本構想（案）に掲げられた取り組みの重要性については、各委員共通の認識とするところであり、全会議を通じて、前向きに各取り組みを進める方向での意見が多く出されました。

さらに、構想を具体化していく段階に及ぶような踏み込んだ意見もあり、そうした意見は、今後各取り組みの実施過程において参考としていただきたいと思います。

かつて、この地は中山道をはじめとする多くの街道がつながる交通の要衝として、人や物、文化などの交流が今日の産業や文化の繁栄の礎となったように、新たに開業するリニア中央新幹線の効果を中津川市の更なる発展への推進力として上手く活用され、未来に向けて魅力溢れるまちづくりを進めていただくことを期待します。

令和元年5月29日

中津川市リニアを活用したまちづくり推進市民会議

座長 高木 朗義

2 提言

中津川市リニアを活用したまちづくり推進市民会議は、会議を経た意見をとりまとめ、市のリニアを活用したまちづくりの推進に向けて、次の12項目を提言するものです。

◎リニア駅周辺のまちづくりについて

- ・リニア駅は岐阜県の東の玄関口となることから、岐阜県の観光・特産品などを体験でき、情報発信するとともに、駅周辺においてリニア利用者と地域住民などが利用しやすい拠点施設「(仮称)清流の国ぎふ観光ターミナル」の整備を図ること。
- ・在来線利用者だけでなく、他の二次交通、自家用車等の利用者の利便性と動線確保を考慮し、リニア駅改札を1階とし、駅周辺に整備する拠点施設は改札に隣接するリニア駅舎内1階に整備するよう、関係機関との調整を図ること。
- ・リニア駅の利用者は中津川市だけでなく広域にわたることから、大規模な駐車場やホテル、利用しやすい交通広場、休憩施設などの広域の交通結節点に必要な機能、広域アクセス道路、バスやタクシー、レンタカーなどの二次交通の整備を進めること。
- ・首都圏からの交通利便性の高さを活かし、リニア駅周辺には、国等の行政機関、本社・研究開発機能、サテライトオフィスなどこれまで中津川市内になかった産業・機能、先端医療・福祉施設、教育機関等の誘致を進めること。

◎中心市街地の活性化について

- ・機能の複合化を図ることで多様なサービスを提供し、子どもから高齢者、障がい者など多くの市民が日常的に利用できるような、にぎわい創出の核となり、交流や活動、学びの拠点施設「(仮称)まちの駅なかつがわ」の整備を図ること。
- ・拠点施設には、観光客などの市外からの来訪者が市内を回遊する仕組みづくりに向けて、市内各地の観光・イベント、歴史・文化などに触れることができる機能を備え、情報発信を図ること。
- ・拠点施設の整備にあたっては、老朽化し手狭となった現在の中央図書館の拡張移転を踏まえ検討するとともに、集客力と特色のある学びの拠点にふさわしい規模や図書機能についてよく検討すること。
- ・拠点施設を含め中心市街地の整備にあたっては、市民と一体となって、飲食、宿泊施設の充実など快適性や回遊性を高めるとともに、中津川らしさが感じられるまちづくりに向けて検討を進めること。

◎市域全体をつなぐ観光振興について

- ・観光振興の拠点施設「(仮称)芝居小屋」の整備にあたっては、地域資源の魅力向上と広域連携、周遊の観点から、一部地域のみ施設とならないよう、よく検討すること。
- ・馬籠宿をはじめとする中山道宿場町、苗木城跡、地歌舞伎と芝居小屋、恵那山などの山々や清流付知川など各地の魅力とイベントなどの情報を広く発信すること。
- ・地元ならではの食、自然の中での遊びやスポーツ、歴史文化を感じる体験などを組み合わせ、来訪者の滞在時間を延ばし、観光産業の振興を図ること。
- ・来訪者が市内各地を気軽に周遊することができるよう案内の充実と、拠点施設を核としたアクセス整備を促進すること。

【参考】

・会議の開催日程、内容

- 第1回 平成30年12月27日 構想（案）の概略
- 第2回 平成31年1月25日 リニア駅周辺のまちづくり、市域全体をつなぐ観光振興
- 第3回 平成31年3月26日 中心市街地の活性化、リニア駅周辺のまちづくり
- 第4回 令和元年5月29日 構想（案）への反映、提言のとりまとめ

・会議の記録（要約）

第1回中津川市リニアを活用したまちづくり推進市民会議 主な発言内容（要約）

平成30年12月27日(木)13:30～
中津川市役所本庁舎4階大会議室

まとめ

- ・全体として反対意見はなく、総論としては賛成、各論では今後、課題などをよく話し合っていきたいというご意見でした。
- ・拠点整備については、どのように活用していくのか、市民のためにこういった役割の施設なのかといったところを、もう少し詰めていくべきというご意見がありました。
- ・観光、自然を含めて文化、歴史、スポーツなど、中津川市の豊富な地域資源を活かしていくというところは非常に重要というご意見がありました。

■構想（案）全体について

<委員からの主な発言>

- ・AI や IoT、MaaSなどを組み合わせ、新しいまちはどうなるのか、どんなことが求められるのかということも視点として重要ではないか。
- ・広域連携、周遊を考えると、市内外をつなぐ道路という点をはっきりと打ち出した方がよいのではないか。
- ・リニアを活用することで、夢を叶えることができる。そういうまちづくりがいい。
- ・まちづくり案は素晴らしいものが示されており、実現できたらすごいこと。
- ・リニアが開業することによって、民間の人も一緒になり、市全体で取り組んでいくきっかけになるとよい。
- ・このまちで暮らす子どもたちが歴史などを学ぶ機会をつくり、中津川市で生まれたことを誇りに思いながら育ててほしい。
- ・豊かな観光、文化、芸術、自然に加えて、スポーツも入れてもらいたい。
- ・市外から人を呼び込むために、住宅団地や大規模なスポーツ施設を整備してはどうか。
- ・まちづくり構想が絵に描いた餅にならないよう、しっかり財政見直しをしてもらいたい。地震対策など災害に強いまちづくりも必要。

■リニア駅周辺のまちづくりについて

<委員からの主な発言>

- ・リニア駅は岐阜県の駅であり、県全体の産業、観光の意見を参考にしながら県とのタイアップが大切。大型の農産物直売所など、リニアの観光客だけでなく観光バスも寄れるような施設があるといい。
- ・市内各地を1日周遊してもらって、リニアの運賃が見合うような場所にしたい。
- ・いろいろな方法で来てもらえるよう、交通拠点としての整備、駅前広場も含めた道路のインフラ整備も必要だと思う。
- ・中津川らしい駅を作れば、世界中から人が来る。真似をするまちづくりではなく、自分たちのまちをよく知ったうえで、リニア駅を作り上げていけたら良い。
- ・JRとの連携を強め、市の活性化に結びつけて、地域住民にも恩恵があるようにしてほしい。
- ・下呂、高山方面の方がリニア駅を使ってもらえるよう、県民は駐車場無料など、コスト差をつけるなど考える必要がある。

■中心市街地の活性化について

<委員からの主な発言>

- ・市内見学など地域への足止め策として、まちなかの美術館は良いと思うが、前田青邨などの固有名詞を使った方が良い。知名度は、人を集めるのに有効な方法の一つだと思う。
- ・まちなかの拠点施設に域学連携や市民交流の場を入れてほしい。
- ・子育てと学びにつながるため、日本一の子ども図書館を作ったらどうか。

■市内全域をつなぐ観光振興について

<委員からの主な発言>

- ・市内の歴史的な人物、場所を深く掘り下げ、磨き上げて観光に結びつけるといい。
- ・地域資源として、スポーツも加えてほしい。
- ・全国、海外からの観光客といかに地域の人たちが交流できるかが大切。
- ・地歌舞伎、馬籠宿などを活用した観光振興のためには、人材育成をしっかりと取り組まないと、今後のまちづくりに生きてこないと思う。

第2回中津川市リニアを活用したまちづくり推進市民会議
主な発言内容（要約）

平成31年1月25日(木)10:00～
中津川市役所本庁舎4階大会議室

まとめ

- ・全体として反対意見はなく、建設的なご意見が多くありました。
- ・リニア駅周辺のまちづくりについては、市内周遊のための交通拠点として機能をよく検討してほしいというご意見が多くありました。
- ・市域全体をつなぐ観光振興については、周遊の魅力となる観光資源の活用について多くご意見がありました。

■リニア駅周辺のまちづくりについて

<委員からの主な発言>

- ・周遊観光を見据え、リニア駅での回遊につながる情報発信が必要。
- ・観光ターミナルで市内の土産物がすべて買ってしまうと市内周遊してもらえなくなるので配慮が必要。
- ・リニア駅周辺については事業費や市の財政状況を考慮して、当初から背伸びした構想ではなく、リニアのまちづくりビジョンの目標である2050年までの長期的視点で進めていただきたい。
- ・観光客にまちの魅力を伝え、滞在していただく構想を新たに考えなければいけないのではないか。
- ・周辺には大型駐車場の整備が必要。
- ・質の良いホテルが必要。ホテルの設備として温泉も検討してほしい。
- ・中津川駅と長野県の飯田駅は近いので、双方に関連するものを考えれば、乗降客が増えるのではないか。
- ・駅前広場、バスなどの乗り場は、動線を確認し、案内表示などをよく研究して、車も人も使いやすい機能を確保してほしい。道路新設、改良についても、バス停やタクシーの乗降をすることで、自転車専用通行帯などは、安全を確保していただきたい。
- ・観光ターミナル構想には異論はないが、周辺道路の工事は大規模な開発となるため、登下校時の児童などを含め歩行者の安全に配慮してほしい。
- ・今まで以上に不特定多数の人が来るので、環境、治安など子どもたちへの悪影響が心配だが、他者を知るチャンスでもある。来訪者と住民の交流につなげることで、知らないことを知る、教育につなげてほしい。
- ・鉄道マニアには、リニアの車両に加え、リニア駅構内も魅力がある。興味のある人がいるので、リニアに関連した写真が撮れるポイントなどを情報発信するといい。
- ・今は物を買うのがオンラインで済んでしまう。何か体感できる、物のストーリーがわかる、ここに来ないと買えないという価値を作るのが、人が来るポイントだと思う。
- ・土地利用イメージに学園施設などもあるが、学生の町、大学の誘致に力を入れてほしい。
- ・東京から中津川に移転すれば家賃が10分の1、100分の1になるといったことをアピー

ルして本社機能、国の機関を誘致してほしい。

- ・中津川をアピールできる名前をリニア駅に付けてほしい。

■市内全域をつなぐ観光振興について

<委員からの主な発言>

- ・歌舞伎など力を入れている分野、明治座周辺を重点的にというところが見て取れるが、常盤座なども忘れないでほしい。常盤座へは年間5,000人のツアー見学者が来ている。
- ・大河ドラマ「いだてん」でも有名な可児徳、杉原千畝などもビジョンに入れてほしい。
- ・外国人のインバウンドについて、キャッシュレス、スマホが鍵となる。免税店、宿泊施設、自動運転なども考えるべき。また来たいと思わせるような戦略が必要と思う。
- ・DMOで地域の人を巻き込んだらどうか。市の施策は限られており、取り組みは民間となる。
- ・キャッシュレスについても、地元の金融機関が頑張って地域通貨を作るとか、民間企業でほぼ無料で利用できるカード決済サービスを提供しているところもあるので、個人商店もすぐできることがたくさんあると思う。
- ・加子母地域には歌舞伎のほかに周辺に体験ができるような観光施設がある。周辺整備も必要であり、加子母村づくり協議会と懇談したらどうか。
- ・苗木城跡はグローバルな視点で市外へ発信している。中津川市の魅力を発信する大きな要素にしたらどうか。
- ・構想については点から線が必要。道路網、交通網の整備が大きな課題。濃飛横断自動車道の整備を進めてほしい。
- ・コミュニティバス自体は観光がメインではなく、観光客の交通手段としては路線バスが最優先だと思うので、記載の仕方を「路線バス、タクシー、およびコミュニティバス」にしてほしい。
- ・若い人は、地歌舞伎にあまり関心がないと思うが、ビジュアルなどに興味がわくのではないかな。バーチャル体験などもいい。地歌舞伎は子どもでもでき、気軽に観劇できるところを押し出すといい。それが地域の財産を打ち出すことになる。
- ・地歌舞伎は海外公演も行っていただき、構想はとてもいいと思うが、明治座も含め中津川市が最終目的地になっていない現状を踏まえ、これからは、個人旅行者をターゲットに、リニア駅降車後の二次交通を検討すべきではないか。
- ・市内に点在する観光関連のソフト事業を周遊プランとしてまとめる必要がある。神坂スマートICを活用した周遊観光を構築していくべき。
- ・恵那山の魅力を活かした発信も必要。
- ・観光地域の拠点施設の名称は、検討が必要。
- ・外国人は電車で来るので、インフォメーションセンターは駅前にあるべき。そこで半日や一日の周遊モデルコース提案した方が良い。
- ・リニアの乗客に中津川市でいかに降りてもらうかが重要。新幹線ができたとき、止まる駅のある自治体は今の中津川市と同じことを考えたのではないかな。成功した自治体、失敗した自治体を研究してはどうか。
- ・芝居小屋の場所をはっきり説明できるような歌舞伎のパンフレットなどがあつたらいいと

思う。

- ・若い人に来てもらうという点で、中津川にしかない歴史や文化を発信するのは大切。若者向けに、地歌舞伎体験をコスプレみたいな感覚でできる。コスプレイヤーでなくてもレンタルして町並みで撮れるような仕掛けもいいのではないか。

■その他

- ・若い方、女性など将来リニアを使う人たちの意見を出せる場があるといい。
- ・10年度、20年後のまちがどのようなかわかりづらい。IT、IoT、MaaaS、5Gなど、どのようなものを活用していくか。イメージできるといい。
- ・数値的根拠をとらえつつ、リニアのまちづくりビジョンに基づいて長期的に進めていってほしい。
- ・どんな施設を建て、どのようなプロセスを経てどういう集客をするのかといったことを議論したい。
- ・東美濃ふれあいセンターなどの既存施設でスポーツイベントを開催し、誘客に活用してほしい。
- ・中津川の特徴ある図書館づくりが必要。
- ・観光誘客による増加について攻める姿勢を作り、中津川駅の乗降客を増やすべき。例えば充実したサッカー場の施設を作るのはどうか。

.....

第3回中津川市リニアを活用したまちづくり推進市民会議 主な発言内容（要約）

平成31年3月26日(火)15:00～
中津川市役所本庁舎4階大会議室

まとめ

- ・リニア駅周辺のまちづくりについては、観光ターミナルを1階に設置する案で進めてほしいというご意見でした。
- ・中心市街地の活性化については、先に進めてほしいという積極的な意見の中で、拠点施設については、適正な規模や機能の充実を求める意見がありました。

■中心市街地の活性化について

<委員からの主な発言>

- ・中心市街地の拠点としては、図書館が非常に良い。会話も飲食もできる新しい形の図書館、情報館として、幅広い年代が利用する複合施設があると、その周りに民間事業者も出てくるし、向かい側に美術館も整備すれば、より街中が発展し、周辺地域も発展する。
- ・図書館も手狭になっているので、中央公民館の在り方も含めて検討していただきたい。
- ・図書館というものの形態が変わってきて、交流拠点になっている。老若男女というか、小さいお子さんから高齢者までいろんな人が使える。そこでワークショップ、会議などいろいろなことができる。そういう拠点をイメージしている。

- ・ 3階建てよりもっと大きなものが必要、横に広げることができないか。
- ・ 拠点施設にはカフェなどもできると思うが、継続して活動していくためにはつくった後のアフターケアも議論しておく必要がある。
- ・ 拠点施設は少し狭いのではないか。十分なスペースを確保してほしい。色々な方が集まって交流空間にするとなると、たとえば今の図書館をなくして移設する場合、今の図書館が担っている学校への配本のためのスペースを確保するなど配慮してほしい。
- ・ 図書コーナーについてはよく利用される方の意見を聞いてほしい。
- ・ 2階に図書コーナーを設けたいとのことだったが、図書館をつくるなら、もう少し議論して中途半端な物を作らない方が良い。反対はしないが、場所など議論した中で中津川市にふさわしいところに設置してほしい。前の建設中止になった当時の二の舞にならないよう、十分に市民合意を形成してほしい。
- ・ 拠点施設は、子どもたちの居場所を確保するスペース、誰でも立ち寄ることができる子育て世代にやさしい場所、子どもたちが伝統文化を体験できる施設にしてほしい。
- ・ 3階の子育て支援は、就学前が対象のようだが、もう少し大きなお子さんも対象にして、そうすると区切られたスペースも必要なので、施設規模をもう1階増やすことはできないか。
- ・ 子育て支援というのも大切だが、これから増える高齢者が集う、活動できる場所を確保、高齢者も何らかの役割を担うことができる場所であってほしい。
- ・ 子育て支援、障がい者、高齢者が活用しやすいものになればいい。
- ・ 拠点施設の子育て支援機能について、不登校（学校に行かない）の子どもたちの居場所づくりも期待している。
- ・ 市民会館のような施設、市民交流機能が必要。
- ・ 中心市街地の核となるような、施設機能として、中津川市の観光だけでなく、イベント、歴史、市内全域のことがわかる、外に発信できる施設にしてほしい。
- ・ 建物としては木材を使って整備すると良いのではないか。
- ・ 駐車場を整備してほしい。
- ・ 市内の観光施設をつなぐアクセス整備をお願いしたい。
- ・ 中津川駅前を再整備し、既存の駐車場が少ないので増やしてほしい。
- ・ 中心市街地で巡回バスが利用できるようにするといいい。
- ・ 中心市街地が栄えることで、各地域の人も栄える。人が集まる施設があって、そこに人が集まる。その帰りに買い物ができるというのも一つの方法。岐阜の商業モール、土岐のアウトレットも参考にしながら取り組んだらどうか。
- ・ 空き店舗の活用が必要。
- ・ ビジネス客向けに歓楽街というか、夜も遊べる場所も必要なのでは。若者の雇用につながる。規制緩和も必要。
- ・ 新町まで来てもらうための仕掛けをすることで、アクセス道路、中心市街地が活きてくる。そういう計画が必要なのではないか。
- ・ 中心市街地の人口が増えると、避難も困難になる。複合施設に避難所的な機能を設けることを考えてほしい。
- ・ 中山道の3宿を日本遺産に登録したいという動きが出ており、そうであれば、新町通りの

- 旧中山道中津川宿らしい歴史文化の薫る街道整備について先に取り組むべきではないか。
- ・インフォメーションセンターは駅前にあるべき。

■リニア駅周辺のまちづくりについて

<委員からの主な発言>

- ・1階に観光ターミナル設置は良い案だと思った。知らない町に行って駅で降りたとき、2階か1階かわからないことがあるので、とにかく改札を出るという動線がわかりやすいと思う。
- ・駅周辺のイメージ図にある清流公園も、1階改札にすれば近くなるので、行ってみる気になるかと思う。
- ・1階に設置する案は良いと思う。リニア駅から在来線に行く人とバスに乗り換える人が多いと思うが、それ以外はレンタカーがほとんどだと思う。中心市街地や他の地域に来てほしいので、レンタカーを設置すべき。
- ・観光ターミナルを使わないと降りられないのは、観光ターミナルに入るお店にとってはメリット。必ずそこを通っていく動線は利用者にとってみるとデメリットがあるが、観光ターミナル機能としては考慮しても良いのではないか。
- ・中心市街地と駅が離れている新青森駅、新八代駅なども参考にするとよい。
- ・リニア駅付近の主要道路に面した場所に農畜産物、食料加工品、工業製品等の販売と特産品を利用した食事場所、観光案内所及び移住、定住相談窓口を設けた「道の駅」「屋台村」を新設し、地域を広くPRする。
- ・岐阜県駅周辺の1haほどの農地を整備し、AI、スマート農業を実現し、農業経営のモデルとする。
- ・「栗きんとん発祥の地」として印象付けるため、駅周辺又は幹線道路沿いの見える場所に栗の木を植栽する。
- ・岐阜県駅の周辺は癒しが感じられる自然を取り入れた風景とする。千旦林川は「清流の国ぎふ」の代表として生物多様性に富んだ河川（里川）に改修する。
- ・リニア駅周辺の食堂等は、全店中津川産コシヒカリにする。
- ・中津川市と恵那市が協力・連携し、「おもてなし」ができる施設、体制を検討していく。
- ・坂本事務所を駅周辺に建設する。

■その他

- ・農畜産物を販売する温泉のある大型複合施設の建設。
- ・栗、落花生、菊ごぼう、自然薯等の生産振興と販売。
- ・貸し農園、体験型の観光農園、ハイキングコース、地域資源の活用で市内の滞在時間を延ばし、次も来たいと思ってもらえるような環境づくり。
- ・夜、苗木城をプロジェクションマッピングで街から見えるようにする。
- ・毎月、季節ごとに市内各地でイベントを行い、集客を働きかける。
- ・企業の本社を中津川市に誘致する。

・市民会議 設置の主旨

2027年リニア中央新幹線開業を目前に、平成25年8月策定の「中津川市リニアのまちづくりビジョン」の実現に向け、平成31年度から始まる中津川市総合計画中期事業実施計画のうち、特に重点的に取り組むべき事業をより具体的かつ戦略的に進めるためのまちづくりの構想を策定するため、市内各界各層を代表する方などから幅広く意見を聴取することを目的とする。

・委員構成団体等

分野	団体名
産業振興	中津川商工会議所
	中津川北商工会
	中津川商店街連盟
農山村振興	中津川市農業委員会
	加子母森林組合
観光振興	中津川市観光連絡協議会
交通	中津川市公共交通会議
教育	中津川市教育委員会
子育て	中津川市PTA連合会
	中津川市子ども・子育て会議
福祉	中津川市社会福祉協議会
文化・芸術	一般社団法人中津川市文化協会
スポーツ振興	特定非営利活動法人中津川市体育協会
環境・防災	中津川市災害に強いまちづくり市民会議
自治会等	中津川市区長会連合会
	中津川市まちづくり協議会等会長会
域学連携	中京学院大学
市議会	中津川市議会
学識経験者	岐阜大学